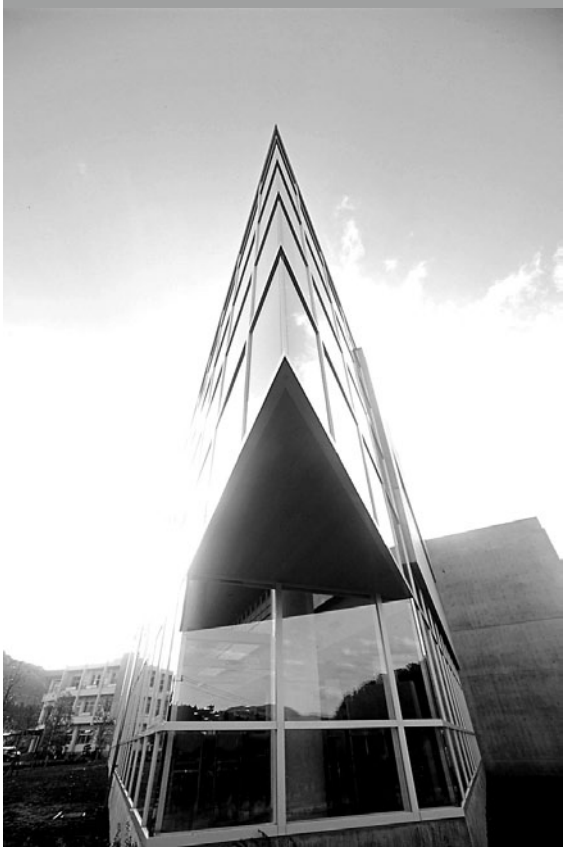
JIN-AI UNIVERSITY
2015 SYLLABUS

平成27年度
大 学 院
シラバス



仁愛大学
JIN-AI UNIVERSITY

目　　次

＜基礎科目群＞

心理学研究法特論 …… 大森　慈子 …… 1
臨床心理学研究法特論 …… 大山　泰宏 …… 2
臨床心理学特論Ⅰ …… 佐藤　至子 …… 3
臨床心理学特論Ⅱ …… 西村　則昭 …… 4
臨床心理面接特論Ⅰ …… 西村　則昭 …… 6
臨床心理面接特論Ⅱ …… 佐藤　至子、三脇　康生 …… 8
臨床心理査定演習Ⅰ …… 森　　俊之、吉水ちひろ …… 10
臨床心理査定演習Ⅱ …… 佐藤　至子 …… 12
臨床心理基礎実習 …… 片畑真由美、久保　陽子 …… 14
臨床心理実習 …… 森　　俊之、吉水ちひろ …… 16

＜基幹科目群＞

神経生理学特論 …… 吉田　和典 …… 18
心身医学特論 …… 岸本　寛史 …… 20
発達心理学特論 …… 竹村　明子 …… 22
教育心理学特論 …… 後藤　智子 …… 23
社会病理学特論 …… 三脇　康生、松嶋　　健 …… 24
社会心理学特論 …… 山本　雅代 …… 25
精神医学特論 …… 三脇　康生 …… 26
人間学特論 …… 都路　惠子 …… 27

＜応用科目群＞

心理療法演習Ⅰ …… 佐藤・西村・三脇・森・片畑・久保・吉水 …… 29
心理療法演習Ⅱ …… 佐藤・西村・三脇・水上・片畑・久保・吉水 …… 30
グループアプローチ特論 …… 駒米　勝利 …… 32
学校臨床心理学特論 …… 倉光　　修 …… 33
心理療法特論 …… 千野美和子 …… 34
産業心理調査解析 …… 杉島　一郎 …… 36

＜研究指導科目＞

臨床心理研究演習 …… 佐藤・西村・三脇・森・片畑・久保 …… 38

心理学研究法特論			担当教員	大森　慈子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP-RM-2111	2単位	1年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う

授　業　の　内　容

心理学研究法への理解を深めるためには、心とは何か、心理学とは何か、そもそも研究とは何かについて考える必要がある。これらをふまえた上で、授業では、問題意識の芽生えから実践までにいたる心理学研究の方法論について、その理論と具体的手法を解説する。観察法、実験法、検査法、調査法といった代表的な研究法のほかに、事例的な研究法も含め、それぞれの特徴と限界を知り、自らの研究をすすめる足掛かりとする。

授業の達成目標

心理学研究法の内容と特徴について理解する。
自らのテーマに対する研究能力を養う。

授　業　の　計　画

第1回：心理学における研究法の重要性(1)
第2回：心理学における研究法の重要性(2)
第3回：心理学における研究法の重要性(3)
第4回：いろいろな研究法の具体例と特徴(1)
第5回：いろいろな研究法の具体例と特徴(2)
第6回：いろいろな研究法の具体例と特徴(3)
第7回：いろいろな研究法の具体例と特徴(4)
第8回：研究テーマと研究計画の関係(1)
第9回：研究テーマと研究計画の関係(2)
第10回：研究テーマと研究計画の関係(3)
第11回：研究テーマと研究計画の関係(4)
第12回：研究報告のしかたと問題点(1)
第13回：研究報告のしかたと問題点(2)
第14回：研究報告のしかたと問題点(3)
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習として、各回でとりあげられる内容について、自身の研究にあてはめて考えをまとめ、授業に臨んでください。また、授業で学んだことを、自分の研究テーマと計画に取り込み、再構築するようにしてください。

成　績　評　価　方　法

レポート(50%)、平常点(50%)
平常点は、授業への参加状況や受講態度などを総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

心理学研究法の内容と特徴について理解できているか。
自らのテーマに対する研究能力が備わっているか。

テキスト、参考図書

テキストは使用しない。
参考図書は、適宜紹介する。

その他(受講上の注意)

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学研究法特論			担当教員	大山　泰宏
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−RM−2121	2単位	1・2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う

授　業　の　内　容

事例研究をはじめとして、臨床心理私学の研究法は心理学研究法の中でも複雑で多様である。そこにおける独特の実証の方法、資料収集の方法、論文執筆の方法等について、演習を交えた講義をおこなう。

授 業 の 達 成 目 標

臨床心理学の論文の仮説設定や構成ができるようになる。

授　業　の　計　画

第1回：各自のこれまでの研究を紹介する
第2回：臨床心理学における研究とは
第3回：研究における倫理
第4回：資料･文献検索の方法(1)
第5回：疑問からリサーチ･クェスチョンを生成する
第6回：先行研究をもとに仮説を深める(1)
第7回：先行研究をもとに仮説を深める(2)
第8回：実証の方法を検討する(1)
第9回：実証の方法を検討する(2)
第10回：事例研究法のダイナミズム
第11回：質的研究法の多様性
第12回：問題部分を書いてみる
第13回：臨床心理学の研究と臨床実践
第14回：データ解釈の批判的思考
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

講義で学んだ知識を各自のこれまでの研究に照らし合わせてみること。
また、講義で学んだ知識をもとに各自の修士論文を検討してみること。

成　績　評　価　方　法

レポート(80%)　平常点(20%)　※平常点は、授業中の発言内容などから評価する。

成　績　評　価　基　準

臨床心理学の論文の仮説設定や構成の仕方を理解し、仮説設定や構成のしっかりした論文を執筆できる。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

森岡正芳･大山泰宏(編)(2014) 臨床心理職のための「研究論文の教室」: 研究論文の読み方・書き方ガイド (『臨床心理学』増刊第6号) 金剛出版

その他(受講上の注意)

各自で自分のこれまでの研究について、事前に振り返っておいてください。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学特論Ⅰ			担当教員	佐藤　至子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−CP−2111	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。

授　業　の　内　容

臨床心理学のこれまでについて学び、今、心の専門家に求められるものは何か、自ら考え実践していくための知識と倫理的感覚を身につけることができるようにする。

授 業 の 達 成 目 標

本講義は臨床心理学専攻の基礎科目である。臨床心理学的支援に専門家として携わること、「臨床心理士」になることを目指す人にとって臨床心理学研究と心理臨床実践教育を体得することは両輪の輪ともいえる課題であり、個々の受講者がこの両者を確実に身につけることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：カウンセリングとカウンセラー　・・・心理療法とは何か・・・①
第3回：カウンセリングとカウンセラー　・・・心理療法とは何か・・・②
第4回：文献購読と発表・質疑応答を行う①
第5回：文献購読と発表・質疑応答を行う②
第6回：文献購読と発表・質疑応答を行う③
第7回：文献購読と発表・質疑応答を行う④
第8回：文献購読と発表・質疑応答を行う⑤
第9回：文献購読と発表・質疑応答を行う⑥
第10回：文献購読と発表・質疑応答を行う⑦
第11回：文献購読と発表・質疑応答を行う⑧
第12回：文献購読と発表・質疑応答を行う⑨
第13回：文献購読と発表・質疑応答を行う⑩
第14回：文献購読と発表・質疑応答を行う⑪
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

日常的に臨床心理学的介入が行われるさまざまな場に触れる機会を得ることができるよう模索し、自らの立場を考慮しながら近づいてみることを心がける。

成　績　評　価　方　法

授業内レポート(40%)、平常点(60%)
(平常点は、授業への参加状況、討論内容により総合的に評価する。)

成　績　評　価　基　準

臨床心理学的支援に専門家として携わること、「臨床心理士」になることを目指す人にとって必須の臨床心理学研究と心理臨床実践教育を体得し確実に身につけること。

テキスト、参考図書

参考図書
現代臨床心理学　S.J.コーチン著　村瀬孝雄監訳　弘文堂(1980)

その他(受講上の注意)

自発的に発言し、主体的な講義への参加を心がけてほしい

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理学特論Ⅱ			担当教員	西村　則昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−CP−2112	2単位	1年後期	講義	必修
<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群				

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。

授　業　の　内　容

臨床心理士の拠って立つ学問としての臨床心理学とはどのような学問であるのか、またあるべきなのか、その全体像を考える。

授 業 の 達 成 目 標

・臨床心理士の仕事とは、基本的人権を尊重し、専門家としての知識と技能を人々の福祉の増進のために用いるように努める仕事であることを理解する。
・臨床心理学とは、近代的主体を範(モデル)として、有効な心理的援助のあり方を科学的＝実証的に探求する学問でなくてはならないという昨今主流となりつつある考え方を踏まえつつ、より広い視野に立って人間の心を捉えることができる。
・多様なクライエントのニーズに対応すべき、これからの心理臨床の専門家が依拠すべき臨床心理学とは、どのようなものであるべきか、その全体像を持つことができ、実際のさまざまな領域の臨床心理士のさまざまな活動を、その全体像の中に位置づけることができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション(心理臨床における科学的実証と哲学精神)
第2回：近代的主体とは何か
第3回：本来的自己と非本来的自己
第4回：神経発達障害児・者の理解と地域援助を考える
第5回：　〃
第6回：不登校児童・生徒・学生の理解と地域援助を考える
第7回：　〃
第8回：摂食障害者の理解と地域援助(あるいは自助グループ活動)を考える
第9回：　〃
第10回：精神病者の理解と地域援助を考える
第11回：　〃
第12回：性別の問題
第13回：心理臨床と宗教
第14回：臨床心理士の倫理
第15回：まとめ(心理臨床における科学的実証と哲学精神)

授 業 外 の 学 習 方 法

授業でディスカッションし学んだことを、内部および外部実習の経験と重ね合わせ、深く考えるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・臨床心理士の仕事が、基本的人権を尊重し、専門家としての知識と技能を人々の福祉の増進のために用いるよう努める仕事であることが理解できているか。
・近代的主体を範(モデル)とする、人間の心に対する科学的＝実証的アプローチの意義と限界を認識し、より広い視野で人間の心を捉えることができるか。
・臨床心理士のさまざまな活動を理解し、臨床心理学の全体像を持つことができ、内部および外部実習の経験をその全体像の中に位置づけることができるか。

テキスト、参考図書
こちらで準備する。また適宜伝える。
その他（受講上の注意）
質問はメールでも受け付けます（nisimura@jindai.ac.jp）。
オフィスアワー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理面接特論Ⅰ			担当教員	西村　則昭
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−CP−2121	2単位	1年前期	講義	必修

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。

授　業　の　内　容

臨床心理士の四つの活動の一つ、臨床心理面接について、特に心理療法とは何かを学ぶ。

授 業 の 達 成 目 標

・クライエントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添いながら、専門的知見に立って、クライエントを正確に見立て、的確に対応していくことができる。
・心理臨床センターで実際に事例を担当し、心理療法演習Ⅰ・Ⅱにおいて発表、討論をおこなうための、特に理論面での土台を作る。
・DSMなどの学派を超えた共通用語に習熟し、見立てをおこなったり、臨床場面におけるさまざまな現象を考えるために、それらを用いることができ、その上で精神分析などの特定の学派の考え方を用いて、事例理解を深めることができる。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション(心理療法とは何か)
第2回：インテーク面接概説
第3回：神経発達障害の見立て(DSM-5を読む)
第4回：神経発達障害児・者の心理療法過程(事例研究を読む)
第5回：神経症の見立て(神経症とは何かを精神分析の観点から考える)
第6回：神経症児・者の心理療法過程(事例研究を読む)
第7回：パーソナリティ障害の見立て(DSM-5を読む)
第8回：パーソナリティ障害の心理療法過程(事例研究を読む)
第9回：解離性障害の見立て(DSM-5を読む)
第10回：解離性障害の心理療法過程(事例研究を読む)
第11回：精神病の見立て(DSM-5を読む)
第12回：精神病の心理療法過程(事例研究を読む)
第13回：面接過程における問題(転移など)
第14回：危機介入(自殺企図の場合など)
第15回：まとめ(心理療法とは何か)

授 業 外 の 学 習 方 法

DSM－5(英語)を学んでいくので、授業で指名されたとき翻訳できるようにしておいて下さい。またこの授業で取り上げられた用語や概念について、もし不明な点があるなら担当教員に質問したり、自ら調べたりして、確実に自分のものとし、心理療法演習における討論をきちんと理解し、参加もできるようにして下さい。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)、小レポート(30%)、平常点(20%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問等を総合して判断します)

成　績　評　価　基　準

・クライエントの人格、基本的人権を尊重し、その心に寄り添う姿勢ができているか。
・DSM-5などの共通言語に習熟しているか。
・その上で、精神分析などの特定の学派の考え方を用いて、事例理解を深めることができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

APA, DSM-5, American Psychiatric Publishing, 2013.
その他、授業の中で適宜紹介する。

その他（受講上の注意）
質問はメールでも受け付けます（nisimura@jindai.ac.jp）。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理面接特論Ⅱ			担当教員	佐藤　至子、三脇　康生
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−CP−2122	2単位	1年後期	講義	必修

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。

授　業　の　内　容

臨床心理面接は心の問題を抱えて援助を求める人たちに対して臨床の場で臨床心理の立場からかかわる時にその中核となるものである。援助を求めて訪れた対象の問題や年代などに合わせてさまざまな形で行われる。言葉として表現されるもの、言葉として表現されることが難しいことに触れ、そのさまざまな現れ方からクライエントの真のニーズを理解し、個としての変容の伴走者となるところがその目指すところにある。
本授業では心理面接がどのように行われるか、その基本的な進め方や構造、さまざまな立場からの面接技法について実践的に学ぶ。実際のケースや、すでに文献に紹介されている事例などを取扱い、事例からできるだけ多くのことを学ぶことを試みながら、臨床心理士としてのエッセンスを身につけていく。

授業の達成目標

心理的援助の実践に向けて諸技法(言葉によらない芸術療法などを含む)について学び、同時に臨床家としての自己理解を深める。

授　業　の　計　画

第1回：芸術療法概論
第2回：ナタリーロジャースの方法論
第3回：サイコドラマ
第4回：GIM
第5回：震災とアートセラピー
第6回：子どもの心の治療について
第7回：児童期の心理療法①
第8回：児童期の心理療法②
第9回：児童期の心理療法③
第10回：思春期・青年期の心理療法①
第11回：思春期・青年期の心理療法②
第12回：思春期・青年期の心理療法③
第13回：軽度発達障害を持つ児童・青年の心理療法①
第14回：軽度発達障害を持つ児童・青年の心理療法②
第15回：まとめ

授業外の学習方法

自分自身について気づきを深め感受性を磨くために、心理学のみならず幅広い分野に積極的に目を向けることを心がける。

成　績　評　価　方　法

授業内レポート(40%)、平常点(60%)
(平常点は、授業への参加状況、討論内容など総合的に評価する。)

成　績　評　価　基　準

心理的援助の実践に向けて諸技法(言葉によらない芸術療法などを含む)について学び、同時に臨床家としての自己理解がすすむこと。

テキスト、参考図書

適宜紹介

その他(受講上の注意)

第5回終了時にレポート1を提出する

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理査定演習Ⅰ			担当教員	森　　俊之、吉水　ちひろ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−CP−2131	2単位	1年前期	演習	必修

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。

授　業　の　内　容

臨床心理査定に関する基本的な知識について学ぶとともに、代表的な発達・知能検査や質問紙人格検査の理論と実践について学ぶ。

授 業 の 達 成 目 標

・臨床心理査定の背景となる基礎理論について理解する。
・代表的な発達・知能検査について理解し、実践できる。
・代表的な質問紙検査について理解し、実践できる。

授　業　の　計　画

第1回：臨床心理査定の基礎理解①(臨床査定の歴史と理論的モデル)
第2回：臨床心理査定の基礎理解②(観察と面接)
第3回：臨床心理査定の基礎理解③(心理検査)
第4回：臨床心理査定の基礎理解④(査定のプロセスと倫理)
第5回：発達・知能検査の理解①(ビネー式知能検査)
第6回：発達・知能検査の理解②(ビネー式知能検査)
第7回：発達・知能検査の理解③(ビネー式知能検査)
第8回：発達・知能検査の理解④(ウェクスラー式知能検査)
第9回：発達・知能検査の理解⑤(ウェクスラー式知能検査)
第10回：発達・知能検査の理解⑥(ウェクスラー式知能検査)
第11回：発達・知能検査の理解⑦(その他の知能検査・発達検査)
第12回：質問紙検査の理解①(特性論に基づく人格検査)
第13回：質問紙検査の理解②(その他の質問紙人格検査)
第14回：質問紙検査の理解③(さまざまな健康スクリーニング検査)
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

その授業で扱うテーマや心理検査について、授業前に各自で、参考書や検査マニュアル等を精読しておくこと。発表者として当てられたものは、そのテーマについて、自分なりに他者に説明できるように調べ、発表レポートを作成すること。
学んだ心理検査について、質問紙検査については自分なりに体験してみること、知能検査についてはお互いにロールプレイをして練習すること。

成　績　評　価　方　法

授業への受講態度および割り振られたテーマについての授業内での発表内容(40%)、心理検査を実践・分析して作成したレポート等(60%)によって総合的に評価する。

成　績　評　価　基　準

・臨床心理査定の背景となる基礎理論について説明できるか。
・代表的な発達・知能検査について理解し、実践できるか。
・代表的な質問紙検査について理解し、実践できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

岡堂哲雄 編「臨床心理学全書 臨床心理査定学」誠信書房 2004年
下仲順子 編「臨床心理学全書 臨床心理査定技法(1)」誠信書房 2004年
皆藤　章 編「臨床心理学全書 臨床心理査定技法(2)」誠信書房 2004年
そのほか、随時、紹介する。

その他（受講上の注意）
各種の心理検査について、授業外での積極的な演習を期待するが、検査用紙・器具等の取り扱いには注意を払うとともに、被検査者のデータ管理や情報の守秘などについて厳重に注意すること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理査定演習Ⅱ			担当教員	佐藤　至子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−CP−2132	2単位	1年後期	演習	必修
<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群				

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。

授　業　の　内　容

『臨床心理査定演習Ⅰ』に引き続き、本講では各種の心理検査法、特に投映法検査を中心にパーソナリティ・アセスメントとして実施されることの多い心理テストの演習を行う。
　最初にさまざまな投映法について理論的背景と実施法を学び、これを基礎に『臨床心理査定演習Ⅰ』で学んだ知能テストなどと合わせて臨床場面で実施される際のテストバッテリーについて学ぶ。
　その後、臨床上使用頻度の高いロールシャッハ法について、片口式の手続きに沿ってテストの実施からスコアリング、解釈までを学ぶ。

授 業 の 達 成 目 標

①演習で取り上げた各種のテストについて、その理論や適用、実施法について理解し説明できること。
　また、代表的な検査法については試行して、実践で使用できるようになること。
②ロールシャッハテストについては、施行手続きから、スコアリング、解釈まで理解し、実施できること。

授　業　の　計　画

第1回：演習の進め方、課題の提示及びアセスメントの意義等について(ガイダンス)
第2回：文章完成法などについて　演習
第3回：描画法(HTP・KFDなど)について　演習
第4回：テストバッテリーについて　演習
第5回：Rorschach Test(Rテスト) の理論的背景と施行法に関する講義
第6回：Rテスト ― 反応領域の分類に関する演習
第7回：Rテスト ― 反応決定因の分類に関する演習
第8回：Rテスト ― 反応内容・形態水準などに関する演習
第9回：Rテスト ― ロールプレイによる実際施行　演習
第10回：Rテスト ― ロールプレイによる実際施行　演習
第11回：Rテスト ― 実際施行したプロトコルのスコアリング　演習
第12回：Rテスト ― 実際施行したプロトコルのスコアリング　演習
第13回：Rテスト ― 整理用紙への記入と形式分析の基礎に関する演習
第14回：Rテスト ― 解釈法について　形式分析・継起分析・内容分析に関する演習
第15回：Rテスト解釈と報告書作成　演習

授 業 外 の 学 習 方 法

①各自が割り振られた検査法の課題について、その理論的背景や適用、実施法等に関して文献及び実際のテストマニュアル・器具等にあたり、リポートを作成すること。また、演習課題として、テストを試行し、分析リポートを提出する。
②ロールシャッハについては、テキストにそって予習・復習を十分行っておくことが望ましい。

成　績　評　価　方　法

授業への参加状況や与えられた課題についての報告・発表などを勘案した平常点(70%)、及び各テストを実践的に試行・分析したリポート等(30%)により評価する。

成　績　評　価　基　準

・性格検査の代表的なテストについて、その理論や適用、実施法について理解し、説明できるか。
・臨床や実習機関において使用頻度の高いテストについては、実践的に使用ができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

・『新・心理診断法 ― ロールシャッハ・テストの解説と研究』　片口安史(著)　1987年

その他（受講上の注意）
各種の心理検査についてテスト（器具）の取り扱いは慎重にし、また被検査者のデータの管理や情報の守秘については厳重であること。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理基礎実習			担当教員	片畑　真由美、久保　陽子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−PR−2111	2単位	1年通年	実習	必修

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群

求める学習成果(教育目標)

心理臨床実践を行うための基礎的能力を育成する

授　業　の　内　容

学内外の臨床施設での臨床活動に参加することによって、インテーク面接、心理臨床面接、ケースマネージメントの考え方を学ぶとともに自己課題の明確化を目指す。学内での実習(附属心理臨床センター)では、実務の基礎研修を行うとともに、ケースカンファレンス、スーパービジョンでの体験から、ケース理解の方法を学ぶ。また、学外での実習では各自教育領域に赴き、実践的な学びを深めることを目指す。

授業の達成目標

学内外での実践を通して、心理臨床実践を行う者としての基本的姿勢を獲得すること。

授　業　の　計　画

前期
第1回：オリエンテーション・心理療法の学び方
第2回：スーパーヴィジョン(M1、M2合同)
第3回：臨床的関わりと治療構造
第4回：セラピストの基本的態度
第5回：セラピストの基本的態度演習①
第6回：セラピストの基本的態度演習②
第7回：見立てとインテーク
第8回：ロール・プレイ①
第9回：ロール・プレイ②
第10回：ロール・プレイ③
第11回：プレイ・セラピィ①
第12回：プレイ・セラピィ②
第13回：プレイ・セラピィ③
第14回：プレイ・セラピィ④
第15回：まとめ(集中準備)
後期
第16回：オリエンテーション
第17回：教育領域外部実習の事前実習
第18回：陪席体験・事例を担当することについて
第19回：心理臨床事例の見立てと対応について①
第20回：教育領域外部実習の中間報告会①
第21回：教育領域外部実習の中間報告会②
第22回：教育領域外部実習の中間報告会③
第23回：心理臨床事例の見立てと対応について②
第24回：心理臨床事例の見立てと対応について③
第25回：教育領域外部実習の中間報告会④
第26回：教育領域外部実習の中間報告会⑤
第27回：教育領域外部実習の中間報告会⑥
第28回：心理臨床事例の見立てと対応について④
第29回：教育領域外部実習の事後実習
第30回：基礎実習のまとめと振り返り

授業外の学習方法

附属心理臨床センターでの陪席を行うこと、心理臨床面接を担当すること。
適宜実習で挙げられるテーマに沿った文献を読み、各自の知識を増やすこと。

成　績　評　価　方　法
平常点(50%)、レポート(50%) (平常点は、授業への参加状況、受講態度、附属心理臨床センターでの活動状況などを総合して判断します。)
成　績　評　価　基　準
心理臨床実践のための基本的姿勢が獲得できているかどうか。 実習体験をいかに自分の言葉で整理できているかどうか。
テキスト、参考図書
適宜、紹介する。
その他(受講上の注意)
心理臨床実践に携わるものとして、必要な倫理的配慮を行い、個人情報の保護については十分な留意を行うこと。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理実習			担当教員	森　　俊之、吉水　ちひろ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−PR−2211	2単位	2年通年	実習	必修

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基礎科目群

求める学習成果(教育目標)

心理臨床における実践的な能力を育成する

授　業　の　内　容

心理臨床の実践に向けて、さまざまな臨床現場に出向き体験的に学ぶとともに、定期的な授業の中で事前学習や実習後の発表・討論を行い、互いにシェアしながら学びを深める。
実習施設としては、年間を通じて『附属心理臨床センター』において臨床実習を行うとともに、前期(夏季休暇中を含む)において外部の実習協力施設(医療および福祉の2領域)にて定められた実習を行い、実習報告書を作成し提出する。なお、外部施設での実習については、医療領域および福祉領域の双方もしくはいずれかを選択し、履修することができる。

授 業 の 達 成 目 標

・インテーク面接に陪席して、適切な記録・報告書が書け、ケースの見立てが行えること。
・来談ケースを実際に担当し、プレイセラーピーやカウンセリングを中心とした継続面接を行い、適切な記録・報告書を作成するとともに、ケースカンファレンスの場で発表が行えること。(なお、年間を通して2ケース以上の担当及び発表経験を積むことが望ましい。)
・さまざまな施設における心理職(臨床心理士等)の業務内容や役割を理解するとともに、施設の機能や特性、他職種への理解、さらに利用者(クライエント)の理解と交流など、各施設に応じた体験を積み、報告(書)ができること。

授　業　の　計　画

①心理臨床センターでの実習
　年間を通して、インテーク面接の陪席およびカウンセリングやプレイセラピーを中心とした継続面接を行い、記録・報告書を作成するとともに、毎週のカンファレンスの場で交互に発表し、討議に参加する。なお、担当ケースについては外部スーパーバイザーによる指導を定期的受けなければならない。
②外部実習協力施設(医療および福祉施設)の実習 については、4月にガイダンスを実施し、5月～7月にかけては医療施設で実習、原則、週4時間×9週間(36時間以上)継続的に行う。また、夏季休暇中に福祉・保健施設の実習を集中的(概ね5日間：36時間以上)に実施する。これらの実習に当たっては、授業の中で事前指導・中間指導・事後指導を行い、実習に当たっての諸課題についてリポート発表や実習報告を行うとともに、各協力施設と連携を図りながら効果的に進めることとする。
③上記①②の実習施設での実習のほか、授業の中で、心理臨床を進めていくうえで重要と思われる事項を取り上げ、リポートの報告や討議を行っていく。

授 業 外 の 学 習 方 法

①心理臨床センターでの実習に当たっては、上述のクライエントの面接(陪席を含む)のほか、電話受け付けや面接室・プレイルーム等の清掃・準備など臨床機能を整える課題も課せられるので、誠実に対応すること。また、実際の面接を通して不審・不明な事柄にも多々直面すると思われるが、自ら学習するとともに、臨床教育研究員やＳＶ、教員等の指導をうけること。
②外部の実習協力施設での実習にあたっては、ガイダンスや事前学習で情報を共有するが、実習中に新たな事項や不明な点があれば、自ら学習するとともに指導担当者に確認するなど、積極的に実習に臨むこと。各臨床現場で体験する様々な事柄と、これまで学んだきた専門的知識を関連づけて考察を深めることが望まれる。

成　績　評　価　方　法

①授業に関しては、参加状況、リポート報告、討議など受講態度を総合的に判断する(30%)。 ②心理臨床センターでの実習に関しては、陪席やケース担当へのエントリー状況、他課題への取り組み態度などを総合した評価する(40%)。 ③外部の実習協力施設での実習に関しては、参加状況や取り組み姿勢、報告書などによって総合的に評価する(30%)。

成　績　評　価　基　準
・インテーク面接の記録・報告書の書き方がわかり、ケースの見立てが行えるか。 ・ケース担当者として継続的に面接を行い、適切な記録・報告をすることができるか。 ・さまざまな施設における心理職の業務を理解し、説明できるか。
テキスト、参考図書
参考図書：下山晴彦(編)「臨床心理学全書４　臨床心理実習論」 誠信書房　2006年
その他(受講上の注意)
臨床心理士を目指す者として初めての臨床実践の場であり、積極的かつ真摯な態度で臨むこと。また、それぞれの施設にふさわしい姿勢や行動と、当該指導者の指示に沿った対応が求められる。なお、当該施設や利用者に関する情報の守秘については厳守すること。
オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

神経生理学特論			担当教員	吉田　和典
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−MD−2131	2単位	1・2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基幹科目群

求める学習成果(教育目標)

医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。

授　業　の　内　容

「カールソン神経科学テキスト・脳と行動」を用いて、脳の構造と機能や種々の行動・認知障害(学習・記憶障害、睡眠障害、不安障害、多動障害など)に関する各章を受講生が分担し、発表・質疑応答を行い、それらの内容に関連する中枢神経系の解剖学的・生理学的背景を概説する。

授業の達成目標

・脳の基本的な構造と機能が説明できる。
・様々な行動・認知障害(学習・記憶障害、睡眠障害、不安障害、多動障害など)に関連する基本的な脳内メカニズムが説明できる。

授　業　の　計　画

「カールソン神経科学テキスト・脳と行動」の各章を受講生が分担し、毎回発表・質疑応答を行う。
第1回：イントロダクション
第2回：発表・質疑応答1
第3回：発表・質疑応答2
第4回：発表・質疑応答3
第5回：発表・質疑応答4
第6回：発表・質疑応答5
第7回：発表・質疑応答6
第8回：発表・質疑応答7
第9回：発表・質疑応答8
第10回：発表・質疑応答9
第11回：発表・質疑応答10
第12回：発表・質疑応答11
第13回：発表・質疑応答12
第14回：発表・質疑応答13
第15回：発表・質疑応答14

授業外の学習方法

予習として、次回の担当箇所を引用文献なども含めてレジメにまとめておくこと。
復習として、受講生全員が発表した内容をノート等にまとめておくこと。

成　績　評　価　方　法

まとめのレポート(50%)、平常点(50%)
(平常点は、授業への参加、毎回の発表内容や質疑応答等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

・脳(中枢神経系)の基本的な構造や機能が説明できるか。
・様々な行動・認知障害(学習・記憶障害、睡眠障害、不安障害、多動障害など)に関連する基本的な脳内メカニズムが説明できるか。

テキスト、参考図書

「第3版カールソン神経科学テキスト･脳と行動」をテキストとして使用するが、購入する必要はない。各受講生が担当する章のコピーを配布する。
参考図書：「目で見る脳～その構造と機能～」時実利彦著、東京大学出版会

その他(受講上の注意)

特になし

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心身医学特論			担当教員	岸本　寛史
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−MD−2121	2 単位	1･2年前期集中	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基幹科目群

求める学習成果(教育目標)

医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。

授　業　の　内　容

心理療法の基礎である、治療構造、病態水準についても事例に則して論じる。
DSMの背景と限界についても論じる。
心身症について概説し、心身症に対する心理療法的なアプローチについて、実際の事例に添いながら話す。
心理療法の過程における身体症状の意味について考える
心と体の関係について考えるため、痛みを取り上げて、身体的側面と心理的な側面の両面から論じる。
心身症の病態や心理療法の手がかりを、バウムテスト、風景構成法、夢、MSSMなどのイメージを通して、考えていく。
無意識的身体心像の概念について、実例を挙げながら論じる
神経精神分析学の方法を示す
がん患者に対する心理療法的アプローチについて論じる。

授 業 の 達 成 目 標

治療構造の意義を実感する(そのために実際の事例を示す)
病態水準について理解する。木村笠原の分類とDSMとを対比させ、それぞれの特徴と限界について理解する。また、てんかん圏・安永の中心気質についての知識を得る。
心身症の概念を把握する。痛みの心理的な側面と身体的な側面について知識をもち、両者を統合した視点を得る。
バウムテスト、風景構成法、MSSMなどの技法を体験し、その治療促進的な要因について理解する。
上記表現療法的媒体を用いた心身症の治療についてのイメージを得る。
夢の意義について、心理学的な理論と神経科学の知見の双方から論じられるようになる。
がん患者への心理療法的なアプローチを行う上で留意すべき点について把握する。
夢を用いた心理療法がどのような形で展開していくかについての概観を得る
神経精神分析学における方法論について理解する。

授　業　の　計　画

第 1 回：治療構造論
第 2 回：心理療法における見立てと病態水準
第 3 回：心身症概説
第 4 回：痛みの身体的側面、心理的側面
第 5 回：バウムテスト
第 6 回：風景構成法
第 7 回：MSSM
第 8 回：夢の身体的基盤
第 9 回：夢を通した心身症へのアプローチ
第10回：無意識的身体心像
第11回：神経精神分析学の方法
第12回：がん患者に対する心理療法的アプローチ
第13回：事例研究 1
第14回：事例研究 2
第15回：心身症に対する表現療法的アプローチ

授 業 外 の 学 習 方 法

参考文献に挙げたものの中で、がん患者に対する心理療法的アプローチについては特に『癌と心理療法』が参考になると思われる。また、神経精神分析については『脳と心的世界』がよい入門書である。講義は事例を中心に行うので、配布資料を見直して、自身の臨床と照らし合わせながら理解を深めるようにされたい。

成 績 評 価 方 法

レポート(70%)　平常点(30%)
平常点は授業への参加状況、事例への積極的なコメントなどを総合して判断する。

成 績 評 価 基 準

具体的な事例に関して、自分なりに病態水準と見立てを述べられるか。
バウムテスト・風景構成法・MSSMの治療促進的な側面を分析できるか。
心身症の心理療法的アプローチにおいて留意すべき点が理解できているか。
夢の身体的基盤と心理療法における意義を説明できるか。
無意識的身体心像について説明できるか。
がん患者に対する心理療法的アプローチにおける留意点を説明できるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

テキスト：資料を配布する。
参考文献：岸本寛史(1999)『癌と心理療法』誠信書房
岸本寛史(2004)『緩和のこころ』誠信書房
カール・コッホ(1957)(岸本・中島・宮崎訳、2010)『バウムテスト第3版』誠信書房
岸本寛史編(2011)『臨床バウム』誠信書房
山中康裕・岸本寛史(2011)『コッホの『バウムテスト第3版』を読む』創元社
岸本寛史・山愛美編(2013)『臨床風景構成法』誠信書房
マーク・ソームズ・オリバー・タンーブル(平尾和之訳、2007)『脳と心的世界』星和書店
山中康裕著作集　全6巻　岩崎学術出版社

そ の 他 (受 講 上 の 注 意)

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

発達心理学特論			担当教員	竹村　明子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP-ED-2111	2単位	1・2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基幹科目群

求める学習成果(教育目標)

発達や教育に関連する専門的知識を習得する。

授　業　の　内　容

本講義の前半では、生涯発達に関する多くの理論的枠組みについて学び、人間の多様性や可塑性に関して理解を深める。後半では、各トピックの発達的変化と心理的問題について各自に調査と発表を求め、その知見を基にディスカッションを行う。最後に、人間の生涯を通した発達とは何か皆で考察を行う。

授 業 の 達 成 目 標

・多様な生涯発達心理学の理論について説明することができる。
・各トピック(例、認知・パーソナリティ)について、発達変化や生じやすい心理的問題について分析することができる。
・人間の加齢に伴う変化について、生涯発達心理学的視点を基に考察する能力を養成する。

授　業　の　計　画

第1回：生涯発達心理学とは(概略の説明)
第2回：生涯発達心理学における主要理論1
第3回：生涯発達心理学における主要理論2
第4回：生涯発達心理学における主要理論3
第5回：知覚と認知の生涯発達
第6回：記憶と情報処理能力の発達変化
第7回：知的能力と創造性の発達変化
第8回：パーソナリティの発達変化
第9回：セクシュアリティの発達変化
第10回：社会的認知の発達変化
第11回：対人関係と社会活動に関する発達変化
第12回：家族の発達と各成員の発達
第13回：死に関する心理の発達変化
第14回：発達に関連する心理学的問題
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

発達心理学の各トピック(認知・記憶・知的能力・パーソナリティ、など)について、関連文献を読んでおくこと。自分の関心のあるトピックについて調べておくこと。授業の中で各自、発表をするよう求める。

成　績　評　価　方　法

発表(40%)　小レポート(30%)　授業時におけるディスカッションへの参加度(40%)

成　績　評　価　基　準

・多様な生涯発達心理学の理論について説明することができるか。
・各トピックについて、生涯に渡る変化や生じやすい心理的問題について分析し、発表することができるか。
・人間の発達について生涯発達心理学的視点を基に考察し、自分の意見を述べることができるか。

テキスト、参考図書

必要に応じて資料を配布し、参考資料等も呈示する。

その他(受講上の注意)

討論に参加できるように生涯発達心理学に関する基礎知識を習得しておくこと。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

教育心理学特論			担当教員	後藤　智子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−ED−2121	2単位	1･2年後期集中	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基幹科目群

求める学習成果(教育目標)

スクールカウンセリングに役立つ発達や教育に関連する心理臨床的専門知識を習得する。

授　業　の　内　容

いじめ・不登校など、現代の学校教育場面における様々な問題について概論する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的な知識と実践方法について、ロールプレイを通して学ぶ。さらに、スクールカウンセリングを巡る様々な問題について調べ、発表および討論を行うことにより、問題意識を深め、自ら主体的に学ぶ態度を養う。

授業の達成目標

学校現場およびスクールカウンセラーの役割について理解する。また、スクールカウンセラーとして活動するための基本的知識と実践力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：学校教育現場における教育臨床学および臨床心理学の役割
第2回：スクールカウンセリングの発展と現状
第3回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題(1)　不登校
第4回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題(2)　いじめ
第5回：児童生徒のこころとからだをめぐる諸問題(3)　発達障碍
第6回：スクールカウンセリングの実際(1)　法と倫理
第7回：スクールカウンセリングの実際(2)　緊急支援
第8回：スクールカウンセリングの実際(3)　ロールプレイ(枠組み作り)
第9回：スクールカウンセリングの実際(4)　ロールプレイ(スタンスとアセスメント)
第10回：スクールカウンセリングの実際(5)　ロールプレイ(学校内外の連携)
第11回：スクールカウンセリングの実際(6)　ストレスマネージメント
第12回：スクールカウンセリングの実際(7)　ワークショップ
第13回：スクールカウンセリングの課題(1)　発表と質疑応答
第14回：スクールカウンセリングの課題(2)　発表と質疑応答
第15回：スクールカウンセリングの課題(3)　発表と質疑応答

授業外の学習方法

事前学習として、日頃から学校教育や生徒指導・教育相談、スクールカウンセリングに関する報道等について関心をもち、問題意識をもって講義に臨んでください。また、事後学習として、講義で扱ったテーマについて、文献に当たって知識を拡充し、研究発表に備えてください。

成　績　評　価　方　法

発表と課題レポート(50%)　授業中のロールプレイ・演習と小レポート(20%)　平常点(30%)
・平常点は、授業への参加状況、受講態度、コメント用紙の提出状況等を総合して判断します。

成　績　評　価　基　準

・将来のスクールカウンセラーとして、基本的な知識と技法を備えているか。
・将来の心理臨床家としての自覚と責任感に裏打ちされた主体的態度を身につけているか。

テキスト、参考図書

卯月研次・後藤智子著『教育相談』北樹出版(2015)、他、適宜、資料を配布します。

その他(受講上の注意)

質問や疑問がありましたら、t-goto@baika.ac.jpまで、ご連絡ください。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会病理学特論			担当教員	三脇　康生、松嶋　　健
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−SC−2111	2単位	1･2年前期集中	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基幹科目群

求める学習成果(教育目標)

社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。

授　業　の　内　容

日本社会の大きな変質を説明し、そこから生じる様々な孤立(が原因で生じる犯罪や病)の問題について、対処の方法を海外の情報も得ながら考える。

授 業 の 達 成 目 標

日本社会の特徴を理解し臨床心理士として何が出来るのか、その社会的役割について考察し実践できる能力を身につける。

授　業　の　計　画

第1回：現代社会の特徴と病理概観1
第2回：現代社会の特徴と病理概観2
第3回：現代社会の特徴と病理概観3
第4回：現代社会の特徴と病理概観4
第5回：現代社会の特徴と病理概観5
第6回：現代社会の特徴と病理概観6
第7回：現代社会の特徴と病理概観7
第8回：新型鬱特論
第9回：医療観察法
第10回：社会的ひきこもりとニート、
第11回：現代社会と暴力、ハラスメント社会1
第12回：現代社会と暴力、ハラスメント社会2
第13回：家族機能の変質と病理
第14回：東北大震災
第15回：理想自我と自我理想

授 業 外 の 学 習 方 法

新聞記事、ネット情報で社会をにぎわすメンタルヘルス問題を調査する

成　績　評　価　方　法

平常点50パーセント　レポート50パーセント
(平常点は、授業への参加状況・受講態度・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

臨床心理士として社会にかかわる方法を学ぶ方法を身に付けたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

①三脇康生他「学校教育を変える制度論」万葉舎
②三脇康生他編「医療環境を変えるー制度を使った精神療法の実践と思想」(京都大学学術出版会)
※②のみ下記ページにアクセスをして、「買い物かごに入れる」→「配送先：JAPAN」→「購入手続きに進む」の順番で手続を行い、申し込み画面にて「氏名」、「住所」、「クーポンコード」等を入力すると、書籍代金が割引されます。
http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784876987511　クーポンコード：T100765(有効期限2015/5/31)

そ の 他 (受 講 上 の 注 意)

私語は厳禁

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

社会心理学特論			担当教員	山本　雅代
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−SC−2121	2単位	1・2年後期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基幹科目群

求める学習成果(教育目標)

社会や集団、組織の中での心理を理解するための知識を習得する。

授　業　の　内　容

人間は様々な社会的状況の中で生き、他者や社会、集団や組織と相互に影響し合っている。
複雑化する社会の中で目の前の問題をどう認知し、働きかけていくべきかは重要な問題となる。
対人認知、集団意思決定、社会的ジレンマ、説得的コミュニケーションなどを取り上げ実証的研究方法を考察するとともに、最近の社会問題について心理的知見より把握し検討していく。

授業の達成目標

・社会心理学に関連する専門的知識を習得する。
・社会心理学の中での臨床問題について学ぶ。
・論文の読解、討論、批判的視点について学ぶ。

授　業　の　計　画

第1回：ガイダンス
第2回：発表とディスカッション、コメント
第3回：発表とディスカッション、コメント
第4回：発表とディスカッション、コメント
第5回：発表とディスカッション、コメント
第6回：発表とディスカッション、コメント
第7回：発表とディスカッション、コメント
第8回：発表とディスカッション、コメント
第9回：発表とディスカッション、コメント
第10回：発表とディスカッション、コメント
第11回：発表とディスカッション、コメント
第12回：発表とディスカッション、コメント
第13回：発表とディスカッション、コメント
第14回：発表とディスカッション、コメント
第15回：まとめ

授業外の学習方法

予習・復習として参考文献を読むこと。
予習として次回授業についてまとめ、発言できるようにすること。

成　績　評　価　方　法

レポート(60%)、発表の内容やディスカッションへの参加状況(40%)

成　績　評　価　基　準

・社会心理学に対する理解を深めることができたか。
・現実社会での個人の行動を理解し、研究と結び付けて考えることができるか。

テキスト、参考図書

講義の中で指示する。

その他(受講上の注意)

担当箇所について発表する際、レジメにまとめ、人数分用意しておくこと。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

精神医学特論			担当教員	三脇　康生
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−MD−2111	2単位	1・2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基幹科目群

求める学習成果(教育目標)

医学や障害等に関連する専門的知識を習得する。

授　業　の　内　容

精神医学の歴史、病気の盛衰、現代のメンタルヘルス問題について深く理解する

授 業 の 達 成 目 標

臨床心理士として医療分野で働ける力を身につける、カウンセリングのときに知っておくべき病気の特徴を理解する

授　業　の　計　画

第1回：精神医学のシステム構築の歴史と現状の説明
第2回：精神医学の歴史1
第3回：精神医学の歴史2
第4回：クレペリン
第5回：ヤスパース
第6回：統合失調症とは1
第7回：統合失調症とは2
第8回：気分障害
第9回：現代型鬱
第10回：フロイト
第11回：ジャネ
第12回：分析に終わりはあるか
第13回：ラカン
第14回：反精神医学
第15回：文化精神医学

授 業 外 の 学 習 方 法

取り上げる精神科医、精神分析家、病気についての本を読んでおく

成　績　評　価　方　法

平常点50%　レポート50%
(平常点は、授業への参加状況・受講態度・質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

毎回、松本雅彦先生の本をまず購読するため、その内容をレジュメすること、そのレジュメと最終期末レポートを書く。その際に、精神医学のあるべき姿を思い浮かべられるかどうかを見る。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

①松本雅彦「精神病理学とは何だろうか」星和書店
②三脇康生他編「医療環境を変えるー制度を使った精神療法の実践と思想」(京都大学学術出版会)
※②のみ下記ページにアクセスをして、「買い物かごに入れる」→「配送先：JAPAN」→「購入手続きに進む」の順番で手続を行い、申し込み画面にて「氏名」、「住所」、「クーポンコード」等を入力すると、書籍代金が割引されます。
http://www.kyoto-up.or.jp/book.php?isbn=9784876987511　クーポンコード：T100765(有効期限2015/5/31)

その他(受講上の注意)

私語は厳禁

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

人間学特論			担当教員	都路　恵子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−PH−2111	2単位	1・2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　基幹科目群

求める学習成果(教育目標)

哲学や宗教など幅広い視点から人間を考察する。

授　業　の　内　容

現在の宗教研究の研究成果を踏まえながら、仏教が我が国へ伝来したことの意義、聖徳太子による仏教受容の意味、さらに鎌倉時代における我が国の仏教者による積極的な仏教理解の展開、とくに親鸞の仏教理解の独自性の問題等を考察し、宗教的情操を涵養する。

授業の達成目標

・仏教の智慧を自分の生活の中で、活用実践できるようになる。
・徹底的に自分と向き合い(＝内観)、自らの「心の声」を自分にも他人にも明確に言葉で伝えることができるようになる。
・執着を手放し、身(行動)・口(言葉)・意(思い・考え)の三業を一致させて現実化する仕組みを体得する。

授　業　の　計　画

第1回：イントロ
第2回：ブッダ(1)　悟りを理解する：身・口・意の三業を一致させる①
第3回：ブッダ(2)　悟りを理解する：身・口・意の三業を一致させる②
第4回：ブッダ(3)　悟りを理解する：身・口・意の三業を一致させる③
第5回：ブッダ(4)　縁起・縁滅、業のあり方を知る①
第6回：ブッダ(5)　縁起・縁滅、業のあり方を知る②
第7回：聖徳太子(1)　十七条の憲法①
第8回：聖徳太子(2)　十七条の憲法②
第9回：聖徳太子(3)　理想の国づくり・人づくり
第10回：親鸞(1)　『教行信証』の世界
第11回：親鸞(2)　アジャセ物語を通しての生き方の転換①
第12回：親鸞(3)　アジャセ物語を通しての生き方の転換②
第13回：生き方としての仏教(1)
第14回：生き方としての仏教(2)
第15回：まとめ：学生によるプレゼンテーション

授業外の学習方法

図書館2階の指定図書コーナーにある書籍など、興味のある本、授業中に紹介する仏教書などをどんどん読んでみること。

成　績　評　価　方　法

レポート(50%)　平常点(50%)
※平常点は、授業への参加状況・感想文・学生発表(プレゼンテーション)などを総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・仏教に対して、正しい理解ができているか。他者にも教えられるほど理解を深めているか。
・仏教の智慧を自分の人生に応用実践できるよう、自分の中で深く解釈しているか。
・自分自身と誠実に向き合い、どのように生きていきたいかという問いに対する答えを自分の中から導き出し、それを具体的に現実化できているか。

テキスト、参考図書

福井仁愛学園『和』、『礼讃抄』、釈尊のさとり(増谷文雄著、講談社学術文庫)

その他(受講上の注意)

特になし

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理療法演習Ⅰ			担当教員	佐藤　至子、西村　則昭、三脇　康生、森　　俊之、片畑真由美、久保　陽子、吉水ちひろ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−PR−2221	2単位	1・2年前期	演習	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　応用科目群

求める学習成果(教育目標)

心理臨床における実践的な能力を育成する

授　業　の　内　容

毎回、院生が仁愛大学付属心理臨床センターで担当したケースのインテーク面接および心理面接を継続しているケースについて報告する。それらの報告に対する教員、スタッフなどによるコメントによりさまざまな理論を背景とする心理療法とその具体的な展開について学ぶ。

授　業　の　達　成　目　標

演習として報告されたケースについてその理論と実践を統合した理解を深める。合わせてこの演習による学びに基づき各受講者が心理療法を実践することができるようになることを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：インテーク事例・心理療法事例についての検討①
第2回：インテーク事例・心理療法事例についての検討②
第3回：インテーク事例・心理療法事例についての検討③
第4回：インテーク事例・心理療法事例についての検討④
第5回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑤
第6回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑥
第7回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑦
第8回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑧
第9回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑨
第10回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑩
第11回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑪
第12回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑫
第13回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑬
第14回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑭
第15回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑮

授業外の学習方法

さまざまな理論的背景を持つ心理療法に関する基本的な文献を自主的に検索し読むことなどにより、演習で検討された課題についての理解をさらに深める。

成　績　評　価　方　法

平常点100%(授業への参加状況と事例報告・発表などを勘案し、担当教員の協議を経て評価を行う。)

成　績　評　価　基　準

・個々の事例が抱える問題についての見立てとこれに基づく心理療法の展開について理解し、説明することができるか。
・説明の背景・根拠となる理論について理解できており説明することができるか。

テキスト、参考図書

各学派の基礎となる理論的書物を自主的に読む。

その他(受講上の注意)

心理療法の背景となる理論の知的理解のみにとどまらず、実践につながるものとして理解を深めることを心がける。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

心理療法演習Ⅱ			担当教員	佐藤　至子、西村　則昭、三脇　康生、水上喜美子、片畑真由美、久保　陽子、吉水ちひろ
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−PR−2222	2単位	1・2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　応用科目群

求める学習成果(教育目標)

心理臨床における実践的な能力を育成する

授　業　の　内　容

前期に引き続き、毎回、院生が仁愛大学付属心理臨床センターで担当したケースのインテーク面接および心理面接を継続しているケースについて報告する。それらの報告に対する教員、スタッフなどによるコメントによりさまざまな理論を背景とする心理療法とその具体的な展開について学ぶ。

授業の達成目標

前期に引き続き、演習として報告された理論と実践を統合した理解を深める。さらに、後期には1年生も実際に事例にかかわる時期となるので、臨床心理学における事例検討の意義などについて個々の体験と照合し理解することを目標とする。

授　業　の　計　画

第1回：インテーク事例・心理療法事例についての検討①
第2回：インテーク事例・心理療法事例についての検討②
第3回：インテーク事例・心理療法事例についての検討③
第4回：インテーク事例・心理療法事例についての検討④
第5回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑤
第6回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑥
第7回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑦
第8回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑧
第9回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑨
第10回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑩
第11回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑪
第12回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑫
第13回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑬
第14回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑭
第15回：インテーク事例・心理療法事例についての検討⑮

授業外の学習方法

さまざまな理論的背景を持つ心理療法に関する基本的な文献を自主的に検索し読むことなどにより、演習で検討された課題についての理解をさらに深める。

成　績　評　価　方　法

平常点100%(授業への参加状況と事例報告・発表などを勘案し、担当教員の協議を経て評価を行う。)

成　績　評　価　基　準

・個々の事例が抱える問題についての見立てとこれに基づく心理療法の展開について理解し、説明することができるか。
・説明の背景・根拠となる理論について理解できており説明することができるか。
・事例の中長期的な経過について、心理療法としての展開のありかたを理解し説明することができるか。

テキスト、参考図書

各学派の基礎となる理論的書物を自主的に読む。

その他(受講上の注意)

心理療法の背景となる理論の知的理解のみにとどまらず、実践につながるものとして理解を深めることを心がける。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

グループアプローチ特論			担当教員	駒米　勝利
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−CP−2221	2単位	1･2年前期集中	講義	選択
<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　応用科目群				

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。

授　業　の　内　容

グループ体験を実習しグループの機能について学ぶ。

授 業 の 達 成 目 標

グループ体験を通して、自己理解・他者理解を深める。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：グループ体験①
第3回：グループ体験②
第4回：グループ体験③
第5回：グループ体験④
第6回：グループ体験⑤
第7回：グループ体験⑥
第8回：グループ体験⑦
第9回：グループ体験⑧
第10回：グループ体験⑨
第11回：グループ体験⑩
第12回：グループ体験⑪
第13回：グループ体験⑫
第14回：グループ体験⑬
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

事前にグループ体験で、どのような体験をしたいかなどの目的を考えて参加すること

成　績　評　価　方　法

授業への参加状況で総合的に判断する。

成　績　評　価　基　準

グループ体験を通して、自己理解・他者理解を深めることができたか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

特になし。

その他(受講上の注意)

2泊3日の合宿形式で行う。全期間参加すること。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

学校臨床心理学特論			担当教員	倉光　修
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−ED−2211	2単位	1・2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　応用科目群

求める学習成果(教育目標)

学校臨床心理学に関する基礎的知識を習得し、内界表現について経験的に学ぶ。

授　業　の　内　容

学校臨床心理学の実践領域に当たるスクールカウンセラーの活動について解説し、その実践上の留意点について述べる。また、心理療法における一つの統合的アプローチを紹介する。それに関連して、物語図版を用いた模擬的カウンセリングや粘土造形に基づく内界表現などを通して、実際のアプローチの機微を習得できるようにする。さらに、実際の事例について検討する。

授業の達成目標

スクールカウンセリングの留意点を理解する。
言語的・非言語的表出と潜在的な葛藤や願望、心理的課題との対応を体験的に学び、理解する。

授　業　の　計　画

第1回：学校臨床心理学とスクールカウンセリングの留意点
第2回：質疑応答1
第3回：一つの統合的アプローチ
第4回：細部の技法
第5回：質疑応答2
第6回：物語図版を用いたカウンセリングの実習1(応答作成)
第7回：物語図版を用いたカウンセリングの実習2(グループ討議)
第8回：紙粘土造形による内界表現1(作品制作)
第9回：紙粘土造形による内界表現2(心理的課題の推測)
第10回：紙粘土造形による内界表現3　(グループ討議)
第11回：質疑応答3
第12回：質疑応答4
第13回：事例検討1
第14回：事例検討2
第15回：事例検討3

授業外の学習方法

各回の講義を受けた後、その講義のノートや配布資料を見直して復習し、自分の日常的な思考や観察される現象にあてはめ、理解を深めるようにしてください。

成　績　評　価　方　法

期末レポート(50%)　平常点(50%)
(平常点は、授業への参加状況・受講態度、質問用紙の提出状況等を総合して判断します。)

成　績　評　価　基　準

スクールカウンセリングの留意点を理解できているか。
言語的・非言語的表出と潜在的な葛藤や願望、ないし心理的課題との対応を、体験を踏まえて理解できているか。

テキスト、参考図書

倉光修　『学校臨床心理学・地域援助特論』　(放送大学教育振興会)(放送大学ビデオ 2014)
倉光修　『カウンセリングと教育』(誠信書房)
村山正治・滝口俊子『現場で役立つスクールカウンセリングの実際』(創元社)

その他(受講上の注意)

心理療法特論			担当教員	千野　美和子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−CP−2211	2単位	1・2年前期	講義	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　応用科目群

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。

授　業　の　内　容

これから実際に面接を担当するにあたって、個人心理療法の原則となる考え方や基本姿勢を学ぶ。
まず、心理療法の歴史の５つの流れを概観する。まず心理療法の目的、心理療法における枠組み、初回面接、見立てなど、心理療法の基本的な考えと姿勢、次に心理療法の一つである遊戯療法、それに伴う母親面接、イメージを扱う箱庭療法、心理テストとの関わり、最後に心理療法の訓練であるスーパービジョン、事例研究について取り上げる。
授業方法は、受講生の発表と話し合いを中心とする。後半の何回かは、基本姿勢を体験的に理解するために実習を行うこともある。

授 業 の 達 成 目 標

心理療法の基本的な考えや態度を理解すること。心理療法についての自分の考えを持つことができること。
面接を担当する心構えを身につけること。

授　業　の　計　画

第１回：オリエンテーション(心理療法の歴史の５つの流れを概観する)
第２回：心理療法の目指すもの
第３回：初めての面接
第４回：初回面接
第５回：見立て
第６回：心理テストとの関わり
第７回：心理療法における枠組み
第８回：守秘義務
第９回：傾聴と共感
第10回：遊戯療法
第11回：親面接
第12回：箱庭療法
第13回：関係について
第14回：スーパーヴィジョンと事例研究
第15回：まとめ

授 業 外 の 学 習 方 法

授業前にすること：前もって、毎回の授業のテーマに関わる文献を提示するので、授業までにその文献を読んで、自分の意見と疑問点をレポートにまとめ、授業時に発表すること。
授業後にすること：授業中の発見、疑問、授業後のまとめをレポートにすること。

成　績　評　価　方　法

毎回の授業中の発表と意見交換(50%)授業後のレポート(50%)

成　績　評　価　基　準

心理療法の基本的な考え方や基本的姿勢を理解して自分の考えを述べることができるか。

テ キ ス ト 、 参 考 図 書

使用する文献については毎回紹介する。

その他(受講上の注意)

文献を読んで出てきた素朴な疑問や問題を出し合い、話し合いを通して、理解を深めていきたい。

オ フ ィ ス ア ワ ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

産業心理調査解析			担当教員	杉島　一郎
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−RM−2221	2単位	1・2年後期	演習	選択

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　応用科目群

求める学習成果(教育目標)

・臨床心理学の専門的知識・技能を習得する。
・臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う。

授　業　の　内　容

産業組織の中で働く人々の心理・行動を、調査・解析するための技法の修得を目的とする。そのために、質問紙の作成から実施方法までの質問紙調査法の技法および収集したデータの解析法、特に因子分析、重回帰分析等の多変量解析の理解を深める。
その後、所定のテーマに沿った調査を実際に行い分析することで、理解をさらに深める。

授業の達成目標

・質問紙の作成ができること。
・質問紙調査法の技法およびデータ解析ができること。
・因子分析や重回帰分析等の多変量解析が理解でき、活用ができること。

授　業　の　計　画

第1回：オリエンテーション
第2回：質問紙作成の原理
第3回：多変量解析の理解(重回帰分析1)
第4回：多変量解析の理解(重回帰分析2)
第5回：多変量解析の理解(因子分析1)
第6回：多変量解析の理解(因子分析2)
第7回：多変量解析の理解(重回帰分析とパス解析)
第8回：多変量解析の理解(クラスター分析、MDS、共分散構造分析)
第9回：質問紙調査法の理解
第10回：質問紙の作成
第11回：質問紙調査の実施と解析
第12回：質問紙調査の解析
第13回：質問紙調査の解析
第14回：調査報告
第15回：まとめ
第16回：定期試験

授業外の学習方法

適宜多変量解析を用いた論文を提示するので、授業までに読んでおくこと。授業で行った内容の理解のため十分な復習をおこなうこと。また、授業では解析の方針や解析結果について討論をおこなうので、質問紙調査の実施やデータ解析は、授業時間外に行うこと。

成　績　評　価　方　法

各自が実施した質問紙調査についての結果報告とレポートの評価(80%)および受講態度(20%)により評価。

成　績　評　価　基　準

・質問紙の作成ができるか。
・質問紙調査を問題なく実施できるか。
・因子分析や重回帰分析等の多変量解析が理解でき、活用ができるか。

テキスト、参考図書

テキスト：未定
参考図書：数学ライブラリー『多変量解析入門』(森北出版)

その他(受講上の注意)
数学の基礎知識(数列、行列、ベクトル、微分等)と、統計学の基礎知識(記述統計、t検定や分散分析等の推測統計)が必要である。行列演算等については授業でも説明するが、基本的なところについては自分で勉強しておくこと。
オ フ ィ ス ア ワ ー
教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。

臨床心理研究演習			担当教員	佐藤　至子、西村　則昭、三脇　康生、森　俊之、片畑真由美、久保　陽子
講義コード	単　位	配当年次	開講形態	選択区分
CP−RM−2211	4単位	2年通年	演習	必修

<科目区分>　人間学研究科臨床心理専攻　研究指導科目

求める学習成果(教育目標)

臨床心理学に関する研究能力の基礎を培う

授　業　の　内　容

修士論文の作成にあたり、研究指導教員との議論等を通して、自分の研究課題を設定し、その課題を解決するための方法論等を検討する。

授業の達成目標

・問題意識をもち自らの研究課題を設定できる。
・自分の研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できる。
・研究者として自分の考えを論理的に表現(論文執筆や口頭発表)できる。

授　業　の　計　画

第1回～第30回　担当教員の進め方にしたがって、文献精読や議論等を進める。

授業外の学習方法

担当教員の指導のもと、各自で自分の研究課題遂行に必要な活動(文献精読、調査、観察、実験など)に取り組む。

成　績　評　価　方　法

レポートや発表(50%)　平常点(50%)
レポートや発表の形式は担当教員により異なる。また、平常点は、授業への参加状況や受講態度等を総合して判断する。

成　績　評　価　基　準

・問題意識から研究課題を設定できるか。
・研究課題に必要な研究方法を吟味し選択できるか。
・研究者として自分の考えを論理的に表現できるか。

テキスト、参考図書

担当教員の指示にしたがうこと。

その他(受講上の注意)

修士論文の作成にあたっては、自らの研究として積極的に取り組むとともに、指導教員と十分に議論しながら計画的に進めること。

オ　フ　ィ　ス　ア　ワ　ー

教育情報システムのトップページ【お知らせ】欄にて確認できます。